

エコアクション21
環境経営レポート

2022年度

運用期間 令和4年4月～令和5年3月



新たなる時代の“より豊かな環境造り”を目指して



株式
会社

Shiji

志道工務店

令和5年5月31日 作成

目 次

1. 環境経営方針	P - 1
2. 組織の概要(事業概要)	P - 2
3. 対象範囲(組織図及び認証・登録範囲)	P - 3
4. 環境経営目標	P - 4・5
5. 主要な環境経営計画の内容	P - 6~8
6. 環境経営目標に対する実績	P - 9・10
7. 環境経営の取組結果の評価	P - 11~14
8. 次年度の取組内容	P - 14
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価 の結果及び違反・訴訟等の有無	P - 15
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	P - 16
11. 産業廃棄物収集運搬業に関する情報公開	P - 17~19
12. 《資料》 環境保全活動状況(写真)	P - 20
13. 《資料》 最近4カ年の動向(グラフ)	P - 21~22

1. 環境経営方針

【基本理念】

弊社は、経営の基本方針として社章に示されている三つのS(Safety、Smile、Strong)を基本として、お客様に誠実に仕えることにより企業の発展を期するとともに、下記の行動方針を定め、「もったいない」の精神の下、“地球にやさしい環境作り”に貢献するように努めます。

【行動方針】

1. 環境経営システムを構築し、下記の重点事項について環境経営目標を設定し、年度毎に見直し、効果的な取組を行います。
 - (1) 二酸化炭素の排出量削減
 - (2) 節水
 - (3) 産業廃棄物の排出量削減
 - (4) グリーン購入の推進
 - (5) 自然エネルギーの利用、普及
2. 環境関連法を含めた弊社の諸活動に関連する法令及び、協定等を遵守するとともに、環境管理レベルの向上を図ります。
3. 行政機関・公益団体等の環境保全施策に協力するとともに、地域社会における環境保全活動に積極的に参加し、環境に優しい街作りに貢献します。
4. 環境教育・訓練、及び社内広報活動等を行い、全ての従業員に環境方針を徹底することにより、環境保全に関する意識を高め、社内における環境意識の向上を図ります。
5. 環境経営の継続的改善に取り組みます。

令和3年4月1日
株式会社志道工務店
代表取締役社長
藤井武樹

平成19年 1月25日 制定

平成22年12月27日 改定

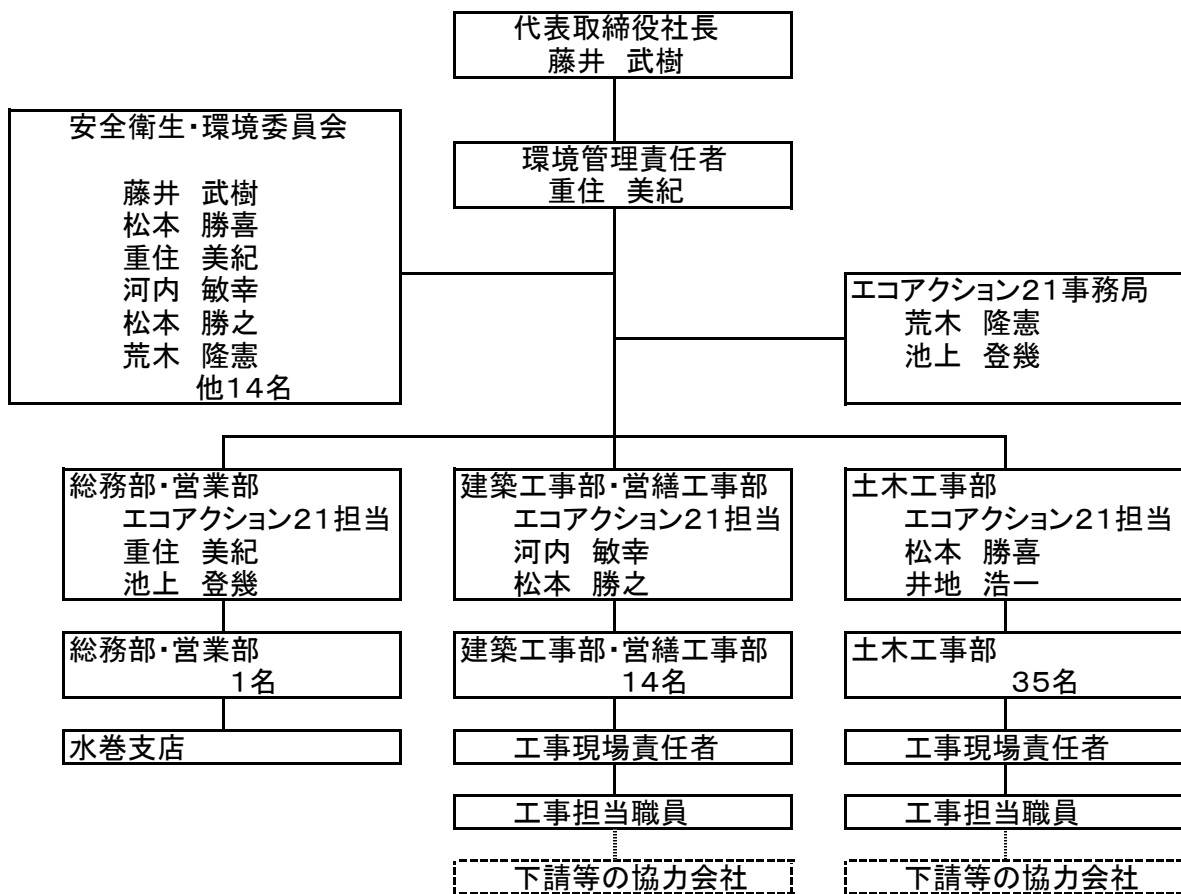
平成25年 5月29日 改定

令和 3年 4月 1日 改定

2. 組織の概要(事業概要)

事業所名	株式会社志道工務店			
代表者名	藤井 武樹【代表取締役】			
所在地	本社	北九州市八幡東区松尾町22-10		
	土木工事部	北九州市戸畑区飛幡町1-1 日本製鉄(株)九州製鉄所構内		
	水巻支店	遠賀郡水巻町猪熊8-13-50		
創立	昭和25年7月			
資本金	4,000万円			
従業員数	59名 (令和4年3月31日現在)			
環境管理責任者	重住 美紀【取締役総務部長】			
連絡担当者	荒木 隆憲【安全衛生・環境部長】			
連絡先	TEL 093-651-4165 FAX 093-651-4166			
	E-mail info@shiji.co.jp			
対象範囲	総合建設業、産業廃棄物収集運搬、ピット・配管内浚渫洗浄作業			
事業の内容	総合建設業 建設業許可 福岡県知事(特・般-1)第12409号 土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工工事業、 石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、 鉄筋工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業、ガラス工事業 塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、建具工事業、水道施設工事業			
	産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物収集運搬業、ピット・配管内浚渫洗浄作業			
事業規模	本社・建築工事部・営繕工事部			
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高	百万円	1,341	1,374	1,505
人員	人	22	22	22
床面積	m ²	197	197	197
	土木工事部			
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高	百万円	709	754	767
人員	人	37	37	37
床面積	m ²	271	271	271
当社の事業年度	4月1日から翌年3月31日			
認証・登録範囲	全組織・全活動			

3. 対象範囲（組織図及び認証・登録範囲）



役割分担表

氏名	所属	役割・責任・権限
藤井 武樹	代表取締役社長	全体統括、環境方針の決定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
重住 美紀	環境管理責任者	全体の把握、環境管理責任者、環境経営システムを構築し、その運用状況を社長へ報告
	安全衛生・環境委員会	安全衛生環境委員会を定期的に開催し、環境目標の達成状況活動計画の実施状況等の審議
	エコアクション21事務局	エコアクション21に関する文書及び記録等の作成、維持、管理
荒木 隆憲	安全衛生・環境部長	二酸化炭素及び水等の消費量の管理、廃棄物の排出量管理、リサイクル・環境優良商品の購入促進
河内 敏幸	営繕工事部長	営繕工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進・管理
松本 勝喜	土木工事部長	土木工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進、管理
松本 勝之	建築工事部長	建築工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進、管理
重住 美紀	総務部長	総務部の統括、エコアクション21について、総務部及び本社内の推進、管理

4. 環境経営目標

① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

目標項目	単位	平成30年度 (基準年度)	令和1年度 目標	令和2年度 目標	令和3年度 目標	令和4年度 目標
二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ /人	227.11	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	▲0.4%
	電力使用量 kWh/人	67.690	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	▲0.4%
	都市ガス使用量 m ³ /人	0.1310	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	▲0.4%
	ガソリン使用量(燃費) km/L	13.198	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%
節水	m ³ /人	0.5794	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	▲0.4%
産業廃棄物の排出量削減	t/人	11.263	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	▲0.4%
グリーン購入	購入件数	477	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%
自然エネルギーの利用、普及	活動状況	自社導入	営業展開	営業展開	営業展開	営業展開
環境保全活動参加	参加数	12	12	12	12	12
環境教育・訓練実施	実施数	1	1	1	1	1

- ※ 当社の総合建設業部門において発生する環境負荷について使用する電力、水は施主からの提供であるか、又は下請工事であるため環境負荷は集計できていない。
- ※ 使用車両のガソリン使用量については、本社に含めて集計している。
- ※ 営繕工事事部・建築工事事部の工事は、本社を拠点としており、工事は協力会社への外注であり、本社と現場事務所を分けない。
- ※ 材料としての化学物質は、協力会社の持ち込みであり、当社で使用量まで把握できない。

② 土木工事部

目標項目	単位	平成30年度 (基準年度)	令和1年度 目標	令和2年度 目標	令和3年度 目標	令和4年度 目標
二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /延人	35.017	▲0.1% 34.981	▲0.2% 34.946	▲0.3% 34.911	▲0.4% 34.876
	電力使用量 kWh / 延人	0.236	▲0.1% 0.235	▲0.2% 0.235	▲0.3% 0.235	▲0.4% 0.235
	LPGガス使用量 m ³ / 延人	0.190	▲0.1% 0.189	▲0.2% 0.189	▲0.3% 0.189	▲0.4% 0.189
	ガソリン使用量 L / 延人	1.258	▲0.1% 1.256	▲0.2% 1.255	▲0.3% 1.254	▲0.4% 1.252
	軽油使用量 L / 延人	11.941	▲0.1% 11.929	▲0.2% 11.917	▲0.3% 11.905	▲0.4% 11.893
節水	m ³	3,250.440	▲0.1% 3,247.189	▲0.2% 3,243.939	▲0.3% 3,240.688	▲0.4% 3,237.438
産業廃棄物の排出量削減	t	0.952	▲0.1% 0.951	▲0.2% 0.950	▲0.3% 0.949	▲0.4% 0.948

- ※ 土木工事部において令和元年から新たな環境経営目標を設定する。
目標値は、平成30年度の実績から0.1～0.4%削減する数値とする。
- ※ 「二酸化炭素の排出量」及び構成する「各使用量」の単位は、延人当たりで計算する。
また、「節水」の単位はm³、「産業廃棄物の排出量」の単位はt当たりで計算する。
土木工事部から出る産業廃棄物は、主に廃プラスチックホースのため、この購入量削減を目標とする。
- ※ 電気の二酸化炭素排出量係数は、九州電力の平成29年度(調整後) 0.463kg-CO₂/kWhを用いた。
- ※ 燃料の二酸化炭素排出係数は、環境省27年度の排出係数を用いた。

5. 主要な環境経営計画の内容

① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

1. 二酸化炭素排出量の削減 (活動目標)0.4%削減 (責任者)重住 美紀
(活動個別目標)0.4%削減
 - (1) 電気使用量の削減
 - ・ エアコン設定温度を決め実行する。
→ シールにより設定温度を表示する。
 - ・ 不要電力の消費を抑制する。
→ 退社時に、プリンターの電源を切る。
→ パソコン不使用时はスリープ状態にする。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
 - (2) 都市ガス使用量の削減 (活動個別目標)0.4%削減
 - ・ ガス機器を点検し清掃する。
 - ・ 給湯器を効率的に利用する。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
 - (3) ガソリン使用量の削減 (活動個別目標)燃費0.4%向上
 - ・ 始動時の長時間アイドリングは止める。
 - ・ 適正な速度で運転する。
→ 法定速度を遵守する。
 - ・ 急発進、急停車を禁止する。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
2. 節水 (活動目標)0.4%削減 (責任者)重住 美紀
 - (1) 節水活動
 - ・ 節水活動を推進する。
→ 適正な洗車及び洗車時間を短縮する。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
3. 産業廃棄物の搬出量削減 (活動目標)0.4%削減 (責任者)荒木 隆憲
 - (1) 建設廃材、一般廃棄物の削減
 - ・ 産廃のマニフェストを適正に発行し、管理する。
 - ・ 分別排出を徹底する。
 - ・ 建設資材廃棄物の再資源化に協力する。
 - ・ 再資源化された資材を利用する。
→ 再生砕石などリサイクル材料を購入する。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
4. グリーン購入適合商品購入増(活動目標)0.4%増加 (責任者)重住 美紀
 - (1) 環境にやさしい商品の購入を増やす。
 - ・ グリーン購入対象商品を把握する。
 - ・ グリーン購入対象商品を購入する。
 - ・ 次期の削減量を検討する。
5. 自然エネルギーの利用、普及(活動目標)営業展開 (責任者)松本 勝之
 - (1) 環境にやさしい商品の普及
 - ・ 商品の実地利用及び検証を行う。
 - ・ 商品を宣伝し、営業活動を行う。
 - ・ 次期の課題を検討する。

6. 環境保全活動への参加 (活動目標)12回/年以上参加 (責任者)重住 美紀

(1) 環境保全活動への参加

- ・ 地元、公益機関等が呼びかける地域清掃活動へ参加する。
- ・ 月に1度、自主的な会社周辺等の清掃活動を継続する。
- ・ 次期の課題を検討する。

7. 環境教育・訓練の実施 (活動目標)1回/年以上実施 (責任者)重住 美紀

(1) 環境教育実施計画を立て、年1回実施する。

- ・ 社員に向け環境に関する環境教育を実施する。
- ・ 次期の課題を検討する。

② 土木工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減 (活動目標)0.4%削減

(責任者) 松本 勝喜

(1) 電気使用量の削減

(活動個別目標)0.4%削減

- ・ エアコンの設定温度を決め、実行する。
→ シールにより設定温度を表示する。
- ・ 不要電力の消費を抑制する。(不要な電気の使用禁止)
→ 電気器具の電源は、こまめに切る。
→ 冷暖房中、各部屋の出入口を開放しないように徹底する。
- ・ 省エネタイプエアコンを導入する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(2) LPGガス使用量の削減

(活動個別目標)0.4%削減

- ・ ガス機器を点検、清掃する。
- ・ 浴槽の水量を検討する。
- ・ 温度の設定を検討する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(3) ガソリン使用量の削減

(活動個別目標)0.4%削減

- ・ 始動時のアイドリングを止める。
- ・ エアコンは控えめに利用する。
→ 必要な時のみ利用する。
- ・ タイヤの空気圧をこまめに点検する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(4) 軽油使用量の削減

(活動個別目標)0.4%削減

- ・ 始動時のアイドリングを止める。
- ・ エアコンは控えめに利用する。
→ 必要な時のみ利用する。
- ・ タイヤの空気圧をこまめに点検する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

2. 節水

(活動目標)0.4%削減

(責任者) 井地 浩一

(1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進する。
→ 浴槽の水量を検討する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

3. 産業廃棄物の排出量の削減（活動目標）0.4%削減

（責任者）岩崎 孝紀

(1) 廃プラスチックの廃棄量削減

- ・ 購入量の削減する。
- ・ 計画的に購入する。
- ・ 利用計画に伴い補修等により延命化を図る。
- ・ 次期の削減量を検討する。

6. 環境経営目標に対する実績

・ 令和4年4月～令和5年3月の全社の総排出量は以下の通りであった。

会社の総排出量実績(実数)

目標項目	単位	令和4年度実績	平成30年度数値
二酸化炭素排出量(全社)	kg-CO ₂	432,906.0	412,227.3
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	kg-CO ₂	64,427.9	52,454.8
(土木工事事部)	kg-CO ₂	368,478.1	359,772.5
節水(全社)	m ³	2,413.3	3,366.4
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	m ³	126.0	116.0
(土木工事事部)	m ³	2,287.3	3,250.4
産業廃棄物排出量(全社)	t	541.5	2,838.5
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	t	526.1	2,838.5
(土木工事事部)	t	15.4	0.9

① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

目標項目	単位	平成30年度 (基準年度)	令和4年度 目標	令和4年度	目標
				実績	の達成率
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ /人	227.11	▲0.4% 226.20	255.56	未達成 12.9%
	電力使用量 kWh/人	67.690	▲0.4% 67.419	60.905	達成 ▲9.6%
	都市ガス 使用量 m ³ /人	0.1310	▲0.4% 0.1305	0.1364	未達成 4.5%
	ガソリン 使用量 km/L	13.198	0.4% 13.251	14.500	達成 9.4%
節水	m ³ /人	0.5794	▲0.4% 0.5770	0.4773	達成 ▲17.2%
産業廃棄物の 排出量削減	t/人	11.263	▲0.4% 11.218	1.993	達成 ▲82.2%
グリーン購入	購入件数	477	0.4% 478.9	481.0	達成 0.4%
自然エネルギーの 利用・普及	活動状況	自社導入	営業展開	営業展開	達成 実施できた
環境保全活動 参加	参加数	12	12	12	達成 ±0%
環境教育・訓練 実施	実施数	1	1	2	達成 200%

② 土木工事部

目標項目	単位	平成30年度 (基準年度)	令和4年度 目標	令和4年度 実績	目標 の達成率
二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ /延人	35.017	▲0.4% 34.876	32.849	達成 ▲ 5.81 %
	電力使用量 kWh /延人	0.236	▲0.4% 0.235	0.225	達成 ▲ 4.26 %
	LPGガス使用量 m ³ /延人	0.190	▲0.4% 0.189	0.185	達成 ▲ 2.12 %
	ガソリン使用量 L /延人	1.258	▲0.4% 1.252	1.195	達成 ▲ 4.55 %
	軽油使用量 L /延人	11.941	▲0.4% 11.893	11.171	達成 ▲ 6.07 %
	節水 m ³	3,250.440	▲0.4% 3,237.438	2,287.260	達成 ▲ 29.35 %
産業廃棄物の排出量削減	t	0.952	▲0.4% 0.948	1.546	未達成 63.08 %

※ 「二酸化炭素の排出量」及び構成する「各使用量」の単位は、延人当たりで計算する。
 また、「節水」の単位はm³、「産業廃棄物の排出量」の単位はt当たりで計算する。
 土木工事部から出る産業廃棄物は、主に廃プラスチックホースのため、この購入量削減を目標とする。

※ 電気の二酸化炭素排出量係数は、九州電力の平成29年度(調整後) 0.463kg-CO₂/kWhを用いた。

※ 燃料の二酸化炭素排出係数は、環境省27年度の排出係数を用いた。

7. 環境経営の取組結果の評価

① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 二酸化炭素の排出量の削減は、255.56Kg-CO₂/人で、環境経営目標値より12.9%増加し、環境経営目標を達成することができなかった。主な原因は、佐賀県白石町で工事があり、通勤や移動でガソリンを大量に消費したためであり、事業の展開上、仕方がない側面がある。
- ・ 本社電灯のほとんどをLED照明にし、電力消費量を削減した。(継続)
- ・ 太陽光発電設備による再生可能エネルギーによる発電も、天候がよく昨年以上の発電があり、二酸化炭素を発生させる電力の削減に貢献した。(継続)
- ・ 都市ガスの使用量については、猛暑の夏に、本社で現場用の麦茶などをガスコンロで作ったため、環境経営目標を4.5%オーバーし、環境経営目標を達成する事が出来なかった。
- ・ ガソリンの使用量についてはエコドライブ、適正な整備を心がけ、日常点検を確実に行った事により、燃費は14.500Km/Lとなり、環境経営目標を達成した。

(1) 電気使用量の削減

- ・ LEDによる照明で、節電した。
- ・ 太陽光発電により、消費電力を減らした。
- ・ エアコン設定温度を決め実行した。
 - シールにより設定温度を表示した。
- ・ 不要電力の消費を抑制(不要な電気使用を禁止)した。
 - プリンター、コピー機、FAXの複合機は15分使わないと節電モードになるように設定した。
 - パソコンは不使用時、スリープ状態になるように設定した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

(2) 都市ガス使用量の削減

- ・ ガス機器を点検し、清掃した。
- ・ 給湯器を効率的に利用した。
 - ヤカンでお湯が沸いたら、すぐ消火した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

(3) ガソリン使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングは止めた。
- ・ 適正な速度で運転した。
 - 法定速度を遵守した。
- ・ 急発進、急停車の禁止した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

2. 節水

- ・ 全社員による節水活動が推進され、夏の酷暑により本社で使用する麦茶等に使う水道使用量が増えたが、-17.2%目標を達成する事ができた。

(1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進した。
 - 掛け流しによる洗車を最低限とし、バケツを利用して洗車した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

3. 産業廃棄物の搬出量を削減

- ・ 産業廃棄物を減らすよう分別排出を徹底し、建設廃材を再資源化できるように配慮した試みを続け、本年度は1.993 t/人となり、環境経営目標を達成できた。また、環境関連法を遵守した産業廃棄物の処理を継続した。

(1) 建設廃材、一般廃棄物の削減

- ・ 分別排出を徹底した。
- ・ 建設資材廃棄物の再資源化に協力した。
- ・ マニユフェストを利用し、適正に処分した。
- ・ 再資源化された資材を購入した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

4. グリーン購入適合商品の購入増加

- ・ グリーン購入については、何とか環境経営目標を達成できた。今回、環境経営目標の目標値が上昇したため、大きく達成することはできなかったが、着実に、購入量は増えている。ただし、頭打ち感も出てきている。
- ・ 今後の取組としては、グリーン購入適合商品で、社内で評判が良かった物について社員に水平展開して、購入量について、増やしていきたい。

(1) 環境にやさしい商品の購入増加

- ・ グリーン購入対象商品を把握した。
- ・ グリーン購入対象商品を選んで購入した。
- ・ 次期の課題を検討した。

5. 自然エネルギーの利用、普及

- ・ 太陽光発電について、平成25年に設備を2倍に増強し、使用電力の自然エネルギー化に努め、継続している。
- ・ 当社の営業先である設計事務所へ、LED照明による省電力化について営業活動を展開した。興味を持った顧客に対しては、積極的な営業活動を行った。

6. 環境保全活動への参加

- ・ 会社周辺の公園や道路の清掃を、月1回安全衛生・環境委員会の後に、自主ボランティア活動として実施している。
- ・ 地元自治体、公益団体、ボランティア団体等から参加要請されていた地域清掃活動に積極的に参加しているが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの活動が中止となった。

7. 環境教育・訓練の実施

- ・ エコアクション21へ参加する事の意義、今年求められる九州のエネルギー供給状況、及び当社の環境経営目標へのアプローチを再確認し、エコドライブや社員の環境意識向上に資する教育を行った。また、交通事故により燃料タンクからガソリンが漏れた事を想定して、環境事故対応訓練を(新型コロナの感染拡大があったため、書面により)実施した。

② 土木工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 電力使用料は、エアコンの温度設定管理を継続し、小まめに電灯を消すことで4.26%削減して環境経営目標を達成することができた。
- ・ LPGガスについては、主に風呂を沸かすため使用している2つある浴槽(大・小)の有効活用し、浴槽の張込み量を検討したことで、2.12%削減して環境経営目標を達成することができた。
- ・ ガソリン使用料は、エコドライブの定着と低燃費車両を導入したことで4.55%削減して環境経営目標を達成することができた。
また、軽油使用料についてもエコドライブの定着とタイヤ空気圧のこまめなチェックで6.07%削減して環境経営目標を達成することができた。
- ・ 全体として、二酸化炭素排出量の削減に土木工事部全員で取り組んだことで5.81%削減し、環境経営目標を達成することができた。

(1) 電気使用量の削減

- ・ 空調温度の適正化。
 - シールにより設定温度を表示した。(冷房28℃、暖房23℃)
 - 定期的にフィルター清掃をした。
- ・ 不要電力の消費を抑制した。
 - 不必要な又は休息及び昼休み時間の電灯消灯。
 - 機器等の電源OFFの徹底。
 - 冷暖房中、各部屋の出入口を開放しないよう徹底した。
- ・ 省エネタイプのエアコンを導入した。
- ・ 次期の削減量を検討した。
※ 使用量の削減活動を行うことで、環境経営目標を達成することができた。

(2) LPGガス使用量の削減

- ・ ガス機器の点検をこまめに行い、整備不良のない様にした。
- ・ 浴槽の水使用量が大きく影響するので、水量に気を配り、無駄をなくした。
 - 浴槽水位の張込みを、水深500mm前後にすることを継続した。
- ・ 温度の設定は、40～42℃の範囲とした。
- ・ 次期の削減量を検討した。
※ 使用量の削減活動を行うことで、環境経営目標を達成することができた。

(3) ガソリン使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングストップを実施した。
- ・ 外気温25℃以下でのエアコン使用を制限した。
- ・ タイヤ空気圧を毎週月曜日に点検した。
- ・ 次期の削減量を検討した。
- ・ エコドライブの定着と低燃費車両を導入した。
※ エコドライブを継続したことで環境経営目標を達成することができた。

(4) 軽油使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングストップを実施した。
- ・ 外気温25℃以下でのエアコン使用を制限した。
- ・ タイヤ空気圧を毎週月曜日に点検した。
- ・ 次期の削減量を検討した。
※ エコドライブを継続したことで環境経営目標を達成することができた。

2. 節水

- ・ エコアクション21を数年に渡り、取り組んできたことで、全社員の節水活動が定着してきた。
- ・ 基準値を見直し、もったいないの精神で取り組み環境経営目標を達成することができた。

(1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進した。
→ 浴槽の水位の張り込みを、水深500mm前後に継続した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

3. 産業廃棄物の排出量を削減

- ・ 弊社から出る廃棄物排出は、バキューム吸引ホース(廃プラ)です。
吸引ホースの亀裂をテープ等で養生をすることで寿命を延ばし、廃棄物排出量の削減に努めてきたが、年度末に耐久性のなくなったホースを大量に更新したことで環境経営目標を達成することができなかった。

※ 平成24年度から、環境経営目標の産業廃棄物排出量削減をホース購入量削減とし、廃プラスチック置き場が満杯になるまで、分別収集している。

(1) 産業廃棄物の削減

- ・ 吸引ホースの倉庫管理を徹底した。
→ 破損状態により、養生を行い再利用した。
- ・ 次期の購入量削減を検討した。

8. 次年度の取組内容

5項に示した今年度の主な環境経営活動計画を継続実施する。

1. 本社・建築工事事部・営繕工事事部

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 節水についての活動
- ③ 産業廃棄物の排出量削減
- ④ グリーン購入適合商品の購入
- ⑤ 自然エネルギーの利用、普及
- ⑥ 環境保全活動への参加
- ⑦ 環境教育・訓練の実施

2. 土木工事事部

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 節水
- ③ 産業廃棄物の排出量削減

※ 取組内容の詳細は、5項を参照下さい。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果 及び違反・訴訟等の有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は、次の通りです。

- ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・ 建設資材リサイクル法
- ・ 建築基準法
- ・ 労働安全衛生法
- ・ グリーン調達法

これらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありませんでした。
尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

令和4年度に入り、福岡県においてもSDGsについて、本格的に県内の企業に対し目標を設定して取り組むよう要請があり、北九州市と同様に弊社も目標を設定して取り組むこととした。特に、環境負荷の測定、及び環境経営の実施状況を確認できる「エコアクション21」と、タイヤの両輪にして新たに継続的に取り組む所存である。

「エコアクション21」については、令和4年度も例年と同様に「もったいない」を合い言葉に環境負荷を減らすと共に、限りある資源・エネルギーの効率的な消費についてチャレンジした。

本社・建築工事部・営繕工事部では、二酸化炭素排出量削減について、目標を達成することが出来なかったが、原因は新型コロナ禍において仕事が減少する中、佐賀県白石町など遠方まで工事を求めた結果、通勤や移動のため多くのガソリンを使わなければならなかったためであり、事業展開のため仕方がない側面がある。ガソリンの消費量こそ増えたものの、自動車運転による燃費は、ハイブリット車の導入や効率的な運転により良好な結果が出ており、社員の節約の意識が根付いている事がうかがえる。

土木工事部では、令和4年度は、産業廃棄物の排出量以外、環境経営目標について達成できており、比較的良好であった。原因として、少しずつ土木工事部で使う大型車両も更新して燃費の良い新型車が増えてきており、また多くの人員を投入して仕事をこなしているため、ガソリン使用量などについて延べ人数で計算している事から良い結果に繋がった。

「エコアクション21」を開始してから、15年以上経過し、ほとんどの目標が0.1%を削減（又は、増加）させる目標となっており、既に贅肉はそぎ落とした状態で環境経営目標に対して取り組んでいる。しかし、最近の夏の異常気象は、特に電力やガソリン消費量について多大な影響として跳ね返ってきており0.1%という微妙な目標に対し、インパクトが大き過ぎるのが悩みである。

これからもSDGsの社内目標定着と共に、新しい技術の導入なども検討しつつ、「エコアクション21」活動を着実に続けていきたい。

11. 産業廃棄物収集運搬業に関する情報公開

① 産業廃棄物収集運搬業の許可

【福岡県】 令和5年3月 優良業者として認定

許可種類	産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	04000031966号
許可年月日	令和 5年3月19日
許可有効年月日	令和12年3月18日
事業の範囲	積替え・保管を行わない 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等(以上3品目については、自動車等破砕物を除く。)、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、木くず、がれき類(廃プラスチック類、木くず、ガラスくず等、がれき類については石綿含有産業廃棄物を含む。) 以上9品目
積替え又は保管	なし

【北九州市】 平成29年7月 優良業者として認定

許可種類	特別管理産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	07650031966号
許可年月日	平成29年7月28日
許可有効年月日	令和 6年7月27日
事業の範囲	積替え又は保管を含まない 廃酸 (水素イオン濃度指数2.0以下のもの、又は水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物若しくはシアン化合物を含むことのみにより有害なものに限る。) 廃アルカリ (水素イオン濃度指数12.5以上のもの、又は水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物若しくはシアン化合物を含むことのみにより有害なものに限る。)
積替え又は保管	なし

【大分県】

許可種類	産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	04408031966号
許可年月日	平成31年4月13日
許可有効年月日	令和 6年4月12日
事業の範囲	収集運搬(積替・保管行為を含まない) 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、木くず、金属くず(鉛製の管又は板であって不要物であるものを含む)、ガラスくず等(廃石膏ボードを含む)、がれき類(以上9種類。ただし、石綿含有産業廃棄物であるものを含み、上記以外の非安定型産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)
積替え又は保管	積替・保管行為を含まない

※ 上記内容につきましては、許可証と同じ表記としております。

② 収集運搬車輛

収集運搬車輛の種類と台数（令和5年3月現在）

10t 清掃車	1台	5t 清掃車	3台
9t 清掃車	1台	キャブオーバ (4t ユニック車)	3台
8t 清掃車	4台	ダンプ(3.65t)	1台
7t 清掃車	2台		
6t 清掃車	2台		



清掃車



(強力吸引)清掃車



③ 産業廃棄物収集運搬料金

収集運搬料金につきましては、産業廃棄物の種類、量、運搬方法、運搬距離等により計算いたします。当社構内作業部までお問い合わせ下さい。無料にてお見積もりいたします。

④ 産業廃棄物収集運搬実績

〈産業廃棄物〉

(単位:t)

産業 廃棄物 種類	運搬方法	処理実績(年/月)												合計
		R4/4	/5	/6	/7	/8	/9	/10	/11	/12	R5/1	/2	/3	
廃油	受入量	115.09	124.40	235.66	124.30	511.89	468.19	146.87	111.75	131.33	60.00	4.80	40.32	2,074.60
	運搬量 清掃車	115.09	124.40	235.66	124.30	511.89	468.19	146.87	111.75	131.33	60.00	4.80	40.32	2,074.60
廃アルカリ	受入量	523.35	403.03	259.77	578.86	587.51	639.71	558.75	322.46	266.23	423.61	272.04	301.42	5,136.74
	運搬量 清掃車	523.35	403.03	259.77	578.86	587.51	639.71	558.75	322.46	266.23	423.61	272.04	301.42	5,136.74
汚泥	受入量	204.57	212.41	208.55	31.49	26.92	44.62	109.32	128.01	212.07	27.35	95.09	194.07	1,494.47
	運搬量 清掃車	204.57	212.41	208.55	31.49	26.92	44.62	109.32	128.01	212.07	27.35	95.09	194.07	1,494.47
廃酸	受入量	32.40	32.40	32.40	32.40	32.40	30.00	24.30	30.30	24.30	36.12	16.12	6.68	329.82
	運搬量 清掃車	32.40	32.40	32.40	32.40	32.40	30.00	24.30	30.30	24.30	36.12	16.12	6.68	329.82
廃プラスチック類	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	運搬量 キャブオーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
ガラス屑 陶磁器屑 コンクリート屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16
	運搬量 清掃車	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16
木屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	運搬量 キャブオーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
金属屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	運搬量 キャブオーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
がれき類	受入量	3.35	0.00	0.00	0.00	0.00	12.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	15.91
	運搬量 キャブオーバ	3.35	0.00	0.00	0.00	0.00	12.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	15.91
	合計	878.76	772.24	736.38	767.05	#####	#####	839.40	592.52	633.93	547.08	388.05	542.49	9,051.72

〈特別管理産業廃棄物〉

(単位:t)

産業 廃棄物 種類	運搬方法	処理実績(年/月)												合計
		R4/4	/5	/6	/7	/8	/9	/10	/11	/12	R5/1	/2	/3	
廃アルカリ	受入量													
	運搬量 清掃車													
廃酸	受入量													
	運搬量 清掃車													
	合計													実績無し

12. 資料 環境保全活動参加(写真)



場所：八幡東区松尾町(会社周辺道路)
内容：地域清掃活動(ボランティア活動)
活動日：令和4年7月2日



場所：八幡東区松尾町(会社周辺道路)
内容：市民いっせい街美化の日
活動日：令和4年10月1日

* 毎月清掃活動を行っているため、5袋の収集となりました。



場所：八幡東区松尾町(会社周辺道路)
内容：地域清掃活動(ボランティア活動)
活動日：令和5年3月15日

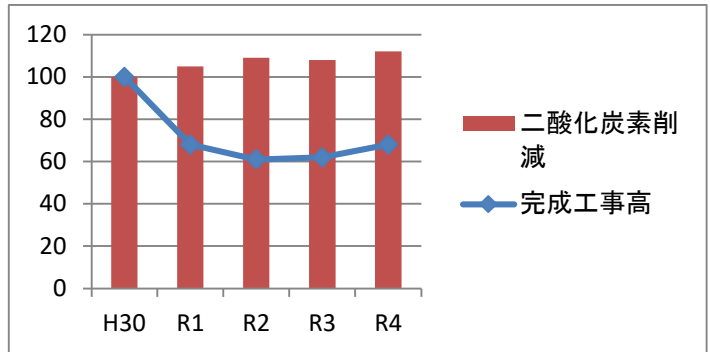
13. 資料 最近5ヶ年の動向(グラフ)

① 本社・工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	68	61	62	68
二酸化炭素削減	100	105	109	108	112

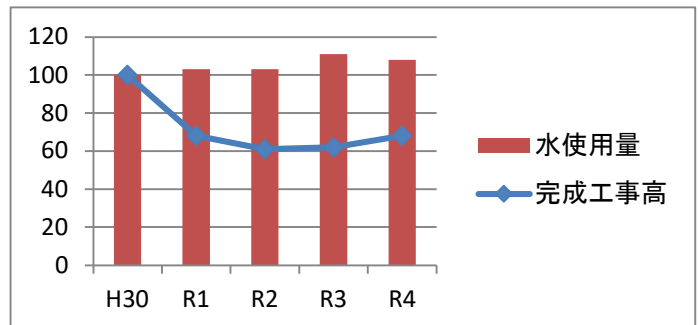
平成30年度を100とした場合の指数



2. 節水

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	68	61	62	68
水使用量	100	103	103	111	108

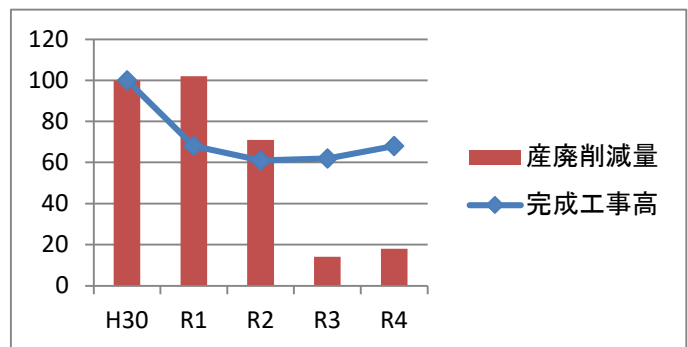
平成30年度を100とした場合の指数



3. 産業廃棄物排出量削減

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	68	61	62	68
産廃削減量	100	102	71	14	18

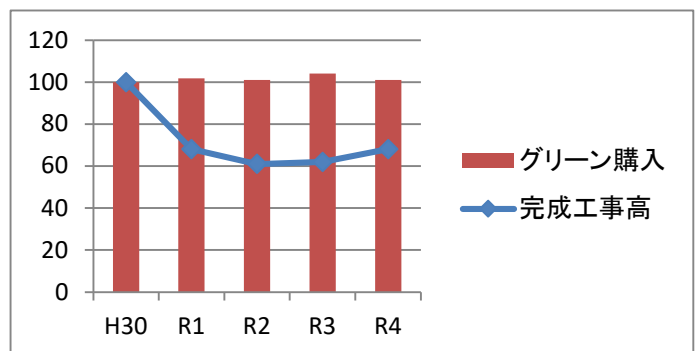
平成30年度を100とした場合の指数



4. グリーン購入量

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	68	61	62	68
グリーン購入	100	102	101	104	101

平成30年度を100とした場合の指数

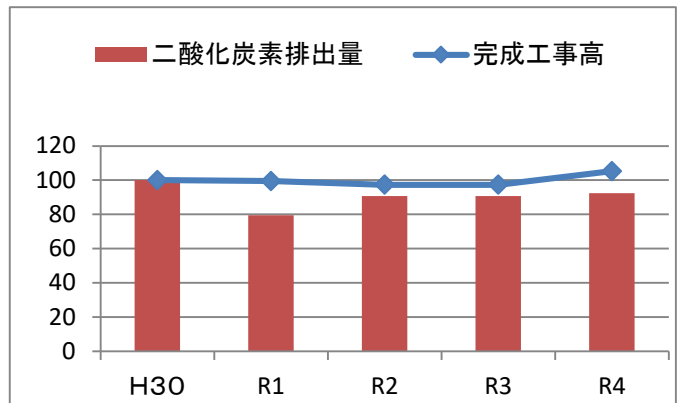


② 土木工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	100	97	97	105
二酸化炭素削減	100	80	91	91	92

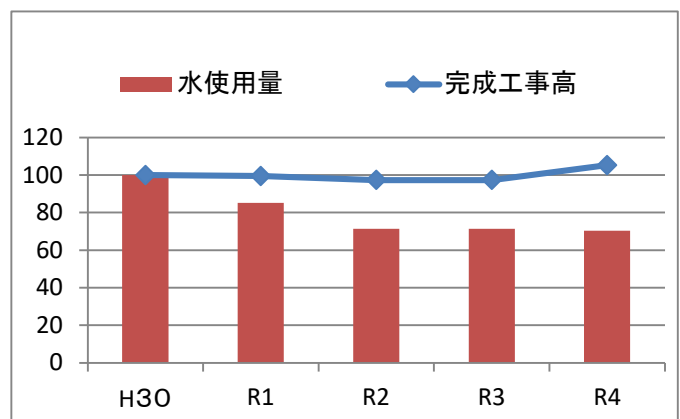
平成30年度を100とした場合の指数



2. 節水

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	100	97	97	105
水使用量	100	85	71	71	70

平成30年度を100とした場合の指数



3. 産業廃棄物排出量削減

	H30	R1	R2	R3	R4
完成工事高	100	100	97	97	105
産廃削減量	100	73	143	143	167

平成30年度を100とした場合の指数

